

氏名	児玉 有弥
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5659号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Location of the Tibial Tunnel Aperture Affects Extrusion of the Lateral Meniscus Following Reconstruction of the Anterior Cruciate Ligament (前十字靭帯再建において脛骨骨孔位置は外側半月板逸脱に影響を及ぼす)
論文審査委員	教授 木股敬裕 教授 大塚愛二 教授 郷原英夫

学位論文内容の要旨

外側半月板の前角は半月板の安定性に寄与している。本研究では前十字靭帯再建後の脛骨骨孔位置と外側半月板逸脱の関係を評価し、逸脱は前十字靭帯再建時の医原的外側半月板前角損傷が影響している可能性に着目した。17歳から31歳の26膝25症例を対象に外側半月板逸脱と脛骨骨孔位置の関係をそれぞれMRI、CTを用いて評価した。3DCTを用いて脛骨表面中央部に新機軸を作製し外側半月板逸脱に関与する参照点を特定した。ROC曲線を用いて脛骨骨孔から参照点までの至適距離を選出、カットオフ値の感度、特異度はそれぞれ83%、93%であった。参照点から骨孔までの距離が5mm以上であれば半月板逸脱は0.4mmであったのに対し、5mm以下の距離であれば逸脱は1.4mmであった。それ故、脛骨骨孔を前十字靭帯脛骨付着部の後方外側に作成すると参照点から骨孔までの距離が短くなり、前十字靭帯再建後の半月板逸脱を招く危険性があることが示唆された。

論文審査結果の要旨

前十字靭帯断裂に対する靭帯再建術の際に、新靭帯を通す頸骨骨孔の作製位置による術後の半月板変位に関する詳細な報告はない。そこで申請者は、骨孔の位置による外側半月版の術後の外側への逸脱の可能性を調査した。

術前と術後のCT/MRIの画像評価により、頸骨骨孔の位置、そして術後の外側半月板変位度を、26膝で調査した。その結果、外側半月板と骨孔の位置が近い程、術後早期に半月板の変位が生じやすいことを初めて明らかにした。今後の更なる前向き研究が期待されるが、本術式における留意すべき点を明らかにしたことになる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。